

非日常の世界感！パート 2



記録的な猛暑が続き日本ももはや亜熱帯か！？と錯覚してしまう近年の夏。今年はそれに加え梅雨にほとんど雨が降らず水不足や農作物（特にお米が心配）への影響も懸念されてます。そんな 2025 年夏真っ盛りですが皆様いかがお過ごしでしょうか。

定期的(年 4 回)に発行していますこの BELLS LETTER ですが、昨年 10 月の VOL.047 以降勝手に休刊となってしまいまして大変申し訳ございませんでした。「300 坪の敷地に広がる森の中を駆け巡るドッグラン付き貸別荘」計画ですが、昨年の 9 月に建物が上棟して以降、本格的に工事が始まり怒涛の日々が続いていま

ましたが、ここにきてやっと一息つける状況になりましたので皆様にご報告させていただきます。まず建築工事ですが、昨年 9 月に上棟して以降大工工事が 12 月いっぱいまでかかり年明け 3 月に仕上げ作業を行い完了検査を受けるつもりでしたが、実際は先月末でした・・・続いて造園工事ですが、建築工事が終わる予定だった 3 月から着工しまして 4 月中旬完成予定でしたがこちらも終わったのが先月末（途中、間は空きましたが）でした。今後の予定ですが、これから旅館業の申請を行い、宿泊施設のホームページを作成（仮のサイトはすでに公開中です）していきます。同時に施設の規約を作ったり、宿泊の予約システムを考えたりと、いままでやって

きた建築業から旅館業への業務へとシフトしていきます。仮サイトでは来月オープンを告知していますが、現状を考えると 10 月以降となりそうです。ん～、ここまで振り返ってみると何だか延び延び感は否めませんが、当初銀行の借入れをする際のオープン予定は 10 月に設定していましたし、途中時間はかかってしまいましたが今回のテーマ「非日常の世界観」は十分出せたのかなと思っています。自己満か（笑）

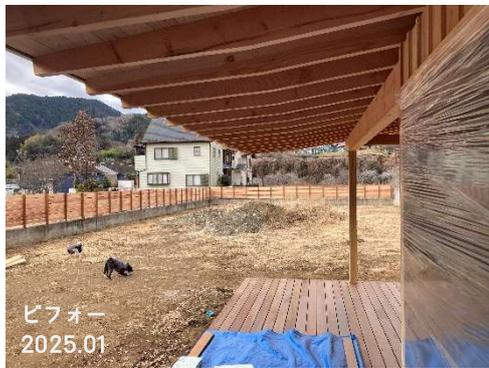
という事でやっと本題です。上の 2 枚の写真は敷地造園工事のビフォーアフターです。土地購入時のビフォー写真の右側に写る民家と左側に写る鉄骨の大きな建物が植栽に囲われ見えなくなってますよね。まさに森の中です！これを実現する為、造園工事の間中はずっと現場に張り付き職人さんたちに指示を出す毎日でした。植える植栽の選定、買い付けに始まり、植栽の配置、植える向きまで全て自分で考えました。計画当初は自宅の庭を作庭してもらった植人さんをお願いするつもりでしたが、個人で動いている為規模が大きすぎて時間的スケジュールが合わずあえなく断念。どこに頼もうか悩んでいる時間も無く、「知らない業者をお願いするくらいなら自分でやっちゃおう！」と一大奮起！もともとやりたい庭造りは自分の中でイメージができていたので決断も早かったです。まず植栽の選定ですが、山の中の自然の森を再現したかったので長野まで行って山の中にある落葉樹をピックアップ。長野の山の落葉樹は関東のそれに比べてしなやかで枝ぶりが柔らかいのでイメージにピッタリ！わざわざ遠出して自分の目で一本一本選んできました。



左の写真は今回シンボリックな存在のイロハモミジ。山の中で撮った写真です。斜めに向かって伸びる幹と枝が力強くもしなやかで一目惚れ。左の写真はそのモミジを実際に現場に植えた様子です。こうやって山の中でこの木はどこに植えようかと頭の中でイメージを膨らませながら一本一本選んでいきます。難しいのはサイズ感です。山の中で見る大きさと



実際に現場に植えた時のサイズ感が全く違うんです。たいがいは実際に植えるとデカっ！ただこれが今思えば逆に良かったかなと。箱庭のように小さくまとまるより迫力があり、森の雰囲気が出せたのかなと。最大10m近くあるヤマザクラをはじめ、7~8mクラスのもみじやコナラ・ケヤキの落葉高木が今回の森を構成しています。さて次は植栽の配置です。現地は遠目には山々の稜線が続きますが、東側、西側には住宅が、北側には鉄骨の建物が見えるのでそこをピーポイントで常緑樹で目隠しします。今回のテーマ「非日常の世界観」を演出する為、日常生活や現実を連想させる周辺の建物などはなるべく見えないようにします。常緑樹は藤沢と小田原の生産農家さんから調達しました。



いかがでしょうか。一目瞭然ですね。山々の稜線や青空をバックに手前の建物は植栽でしっかりと目隠し。まさに“森の中”更にバランスを見て高木の下にも低木を植えていき全体を整えていきます。

最後に今回こだわった石工事のお話です。厳選した植栽たちが森を構成していますが、その引き立て役になっているのが“石”たちです。上のアフターの写真にもチラッと写っていますが、雨落ち（雨樋が無いので雨水を受ける溝）や沓脱石（くつぬぎいし・庭からデッキに上がる為の石）です。今回落葉樹を長野で調達してきた事もあり石も長野の木曾石を採用しました。何事も人任せにできない性分で石も長野まで行って自ら選んできました。植栽同様にそのサイズ感をイメージするのが非常に難しく、特に苦労したのは駐車場から建物まで続くアプローチの階段と飛び石の選定でした。ただでさえ難しい石の選定ですが、アプローチはその石を複数連続して並べていきデザインします。簡単に持ち上がる重さではないので実際に並べてイメージすることができません。ん～困った、どうしようと悩んだ挙句に思いついた方法は？候補の石の写真を1つ1つ真上から撮って紙にプリント。それを石の輪郭に合わせてハサミでカットしテーブルの上でシュミレーションするんです。これなら重たい



石をテーブルの上で自由に動かしてイメージできます！この方法が功を奏していい感じのアプローチに仕上げる事ができました！これ以外にも石は土留めに使ったり、駐車場にも敷き詰めたりと庭のあちらこちらに色どりを添えてくれました。

いかがでしたでしょうか。まだまだお話ししたい事が山ほどあるのですが今回はこれ位にしてまた別の機会に

ご紹介させていただければと思います。工事中の事を振り返りながら今回の原稿を書いていたのですが何だか熱いものがこみ上げてきました。ただ余韻に浸っている場合ではありません。これからオープンに向けてやらなければいけない事が山積みです。次回のベルズレターでオープン後の様子をご紹介できるようもうひと踏ん張り頑張りたいと思います！

ある休日の午後



こんにちは。設計の天内です。今回は何気ない、特に何でもないお話し。

葉山にその名も「葉山公園」という飾り気もない小さい公園があります。そこは、若いころから私にとってお気に入りの場所でした。住宅街の奥、細い道を抜けた先にひっそりと佇むその公園には、小さな防波堤と穏やかな海、そして潮の香りに満ちた静かな空気があります。人の少ない季節には誰にも邪魔されず、防波堤の先でひとり釣り糸を垂らすことができる、そんな贅沢な時間を過ごせる、私にとっての“人に教えたくない場所”です。

私は10代を鎌倉で過ごし、逗子や葉山にも多くの友人がいました。あの頃の海辺は、観光地というよりも、私たちの“日常の延長”のようなものでした。葉山公園も、そんな日々の記憶に自然と溶け込んでいます。けれど、時代は少しずつ変わっていきます。今年9月から、この公園の駐車場が無人の自動化システムによって通年有料化されると聞きました。これまで平日は無料だった駐車場も、今後は料金が必要になります（※ここ大事）。先月の平日、久しぶりに釣りに訪れた際、駐車場の管理人を長年務めてきたおじいさんと立ち話をする機会がありました。

おじいさんは、県からの委託で土日や夏季期間中の駐車場管理をずっと続けてこられた方で、公園がまだ御用邸の敷地だったころからこの場所を知っていたといいます。

「昔はね、こんな住宅地の端にある小さな公園なんて、地元の人しか来なかったんですよ」と、おじいさんは懐かしそうに語ってくれました。「でも今はスマホやSNSで“無料駐車場”“穴場スポット”なんて情報があつという間に広まって、県外ナンバーの車が平気で細い道に入ってくるようになったんです。休日になると車列ができて、ご近所にも迷惑がかかってしまっってね」便利さの裏で生まれる新たな不便。注意喚起や交通整理もおじいさんの仕事だったそうですが、「もう私も年ですからね。後継もいないし、若い人はこういう仕事をやりたがらない。県もそれで自動化に踏み切ったんでしょうね」と、少し寂しそうに話されていました。

「観光客や宿泊客もずいぶん増えましたよ。わざわざ東京から来る若い人も多くなった」と続けるおじいさんの言葉に、時代の流れを感じながらも、少し胸がざわざわするような思いがしました。かつての“静けさ”が、少しずつ押し流されていく寂しさと、けれどそれでも人が惹かれてくる葉山の魅力——どちらも否定できない事実です。

「私が若いころは、この辺りの道なんて舗装もされていなかった。夜になると真っ暗で、公園のまわりは空地ばかりだったんです。今はどこかしら明るいし、夜に花火をする人もいて賑やかです」そんな話を聞きながら、私は心の中で思いました。「この場所を好きでいてくれる人が増えるのは決して悪いことじゃない」と。ただ、あの小さな防波堤で静かに海を眺める時間だけは、どうかこれからも変わらずに残っていてほしい——そして駐車場有料は厳しい（笑）——そんなことを思いながら、ぼーっと竿先を眺めていたそんなある休日の午後でした。

散文的に、いつも通りの雑記です。

「昔はこんなに暑くなかった。」大工の森山がよく言う台詞です。梅雨らしい雨も降らず、30℃超えの日々が続く7月。みなさまいかがお過ごしでしょうか。塩谷です。

現在担当させていただいております現場が、マンションの10階。南向きのバルコニー。江の島がドンと見えます。ふと目に止まった江の島から北に位置する山に白い建物。そよ風を受けながら、「あの白い建物、なんですかねー。」と、興味もないのについつい口をついて出てしまう、ゆるりとした休憩時間。「あれは龍口寺だな。」と、大工の森山。亀の甲より年の功とはいいますが、さすが森山さん。よく知ってるなあ、なんて関心しておりますと、おもむろにスマホを取り出して、「藤沢市 龍口寺 七面堂」とグーグルの音声入力で検索してくれました。(しちめんどう?)と疑問を抱く間もなく、画像検索から写真を物色して、「これ昔、俺が作ったんだよ。」と見せてくれました。技術革新が世代を超えたコミュニケーションを支えた瞬間です。



「はえー」と、「は」と「へ」の丁度中間あたりの感嘆が漏れ出てしまいました。

伝統的な技術を受け継いだホンモノの大工さんが目の前にいると思うと背筋が伸びました。

「休日に見に行きます！」もちろん社交辞令、ではなく本当に行くつもりです。ちょうど子どもたちと江の島水族館に行く予定を立てていたところでした。その帰りに寄る目論見でしたが、4歳と9歳の子どもが寺に行きたい訳もなく、あっさり断られました。残念無念。一人の時間を作って行ってみようと思います。作った人を知った上で見る寺社仏閣、何を感じるか今から楽しみです。

侘び、寂び、和らぎ。繊細な情緒を表現する「うららか」、「たおやか」などの大和言葉。

残念ながら私にとって普段使う言葉ではありません。ですが言葉がなくなれば、その気持ちは認識できなくなっていくのではないかと、そう思うことがあります。歴史的な建造物が醸し出す空気。人が繋いできた技術。それをしっかりと価値あるものとして感じ取るための言葉。

今風に言えば、エモい、チルい、エグい、ヤバいで片付けてしまうところでしょうか。

それはそれで味がありますし、時に便利です。ですが大味な流行語でどこまで人の気持ちを伝え合えるか。流行語が日常言語と取って代わった時、そこにあった小さな気持ちを忘れてしまうような気がしてなりません。これは私の老婆心かもしれませが、それでも言葉を大切に生きていきたいと感じます。

例として適切かはわかりませんが、蝶と蛾。フランス語では「パピヨン」で一括りに表現されるそうです。フランス語圏で生まれ育てばその区別はなく、夜行性かどうか、ただただその個体の違いです。言葉が変わると、認識も変わるというよくある話です。

侘び寂びや和らぎといった言葉が、わたしたちに認識させる感覚を、いつまでも大切にしていきたいと思う今日このごろです。

言葉の持つ力は良くも悪くも強いと思います。

労働者不足。物価高騰。自己責任。私は言葉が及ぼす意図的な支配から自由でいたいです。

労働者不足と嘆くより、職人が貴重な存在として見直される時代が来たと捉えたい。

物価高騰を叫ぶより、適正価格を再考する機会と捉えたい。

自己責任を問うなら、構造の欠陥にも目を向けたい。

何一つ具体的な解決策を見出さない、幼稚な考えかもしれません。

もしも言葉が認識を産み、認識して初めて問題に気づくのならば、動物が身の危険を知らせる合図を出すように、言葉にする、声を上げる。

ホモ・サピエンスの偉大な発明、歴史にならって。

普段こんなことを考えているようなフリをして生きています。笑

というのも移動中は決まって youtube でアバタローという本要約チャンネルを聞いております。そこでは名だたる哲学者が残した名作が紹介されております。特に印象的だった事はハマトンの知的生活のなかで、僅かな知識でも人格に影響を及ぼすという一節です。思い当たる節があります。それをパスタに入れるパクチーで例えてるところが実にわかりやすく秀逸だなと思います。

それでは雨乞いついでに一曲紹介です。

LITTLE TEMPO の「山と海」から 「In The Rain」

AppleMusic 等でも配信されてます。

イントロから心を鷲掴みにする、MELLOW GROOVE。癒やしの

RootsNumber にぜひ耳を傾けてみてください。それでは。



Bells kitchen

皆さま、お久しぶりでございます！！今回は2024年10月号と、こんなに間が空くのは初めてのことで🍀

別荘関係のことでてんてこ舞いの毎日でしたが、とうとう完成いたしました!(^^)! 完成してホッと一息・・・のはずなのですが・・・

梅雨はほとんど雨が降らず、そのまま夏に突入し猛暑といった感じだったので、この春に植えた別荘の樹木には過酷な状況でダメになってしまった樹木もありました。根付くまでは水やりが大切、とのことで寄へ通っては水をやり、犬たちも一緒に泊まり込みの日もありました。

まだ調理道具も揃っておらず、家からキャンプ用の道具を持って行ってのご飯作り。少ない道具で何を作るか毎回頭を悩ませました。そんな時に大活躍したのが今回ご紹介する「豆腐のフムス」。

フムスとは中東の料理でひよこ豆のペーストです。お肉や野菜、トーストに付けたりとアレンジもしやすいのです。しかし、ひよこ豆を茹でて、ブレンダーにかけて・・・と少々手間がかかるのです。そこで豆つながりで日本が誇る豆腐！！豆腐は水切りしなければなりません、ペーストにするのもすりこぎ棒でOK。調味料を入れるだけで完成！！付け合わせの野菜は何でも良く生でも良いのですが、今回はナス、ズッキーニ、アスパラをオリーブオイルで焼いたグリル野菜にしました。



事前に作っておいて、冷やしておくだけで素敵な食事に。
 生ハムなんて添えたらビールもワインも進みます。
 一日外で作業して、疲れ切ったの夕食・・・なんてときに本当に助けられました。
 ホームパーティーの前菜にも喜ばれると思いますし、キャンプに持って行っても最高！！



- 〈材料〉
- ・木綿豆腐 1丁
 - ・にんにく すりおろし少々
 - ・味噌 小1
 - ・塩麹 小2 (なければ普通の塩でも可。その場合の分量は様子見て調整)
 - ・練りごま(白) 大1
 - ・レモン 大1
 - ・クミンパウダー 小1
 - ・オリーブオイル (盛り付けたら上からかける)
 - ・あれば飾り用にパプリカパウダー

〈作り方〉



木綿豆腐を
しっかり水切りする



すりこぎ棒でつぶし、
調味料を入れ、滑らかになるまで混ぜる。



オリーブオイルと混ぜながら、
野菜、パン、お肉に付けてもGOOD！！
さあ召し上がれー！！

編集後記

今回ご紹介しました貸別荘の造園工事ですが、メインの記事には書きませんでした。壮絶な裏話がありました。今回常緑樹、落葉樹合わせて総数180本位の木を植えました。春先に植えて以降現在までに30本近くの木が枯れてしまいました・・・(涙)。落葉樹の中には植え付け後に葉っぱすら出ないで枯れてしまったものも。一番の原因として考えられるのは水不足。植え付け後にはたっぷり水をあげていたつもりでしたが、それでも全ての木にしっかり水やりしようとする半日以上作業に。毎日のつもりが1日おき、2日おきになる事も。計画当初は芝生も含めてタイマーによる灌水システムを導入する予定でしたが、工事が進む中で予算が厳しくなり設置断念。



また今年は梅雨に雨が全く降らず、降らないだけならまだしも連日の猛暑日続き。梅雨明けあたりからは元気だった木が突然枯れてしまう事も。このままではまずい・・・という事でドリップチューブという穴が開いているチューブを自分で設置する事に。ただ全ての木にまんべんなく水を供給しようとするかなりの距離のホースが必要になり、この記事を書いている現在もまだチューブの設置作業中です(涙)。ただチューブでの水やりを始めてからは植栽たちの様子もだいぶ安定してきました。人間は喉が乾けば自分で水を飲む事ができますが、木は猛暑の中、じっと耐えるしかありません。もっと早く気づいていれば・・・。写真は建物のデッキ前に植えたアオダモの木です。この木も途中葉っぱがしおれてきて茶色くなり枯れてしまうのかなと見守っていましたが、チューブの水やりを始めたころから小さいですが徐々に新しい葉っぱが出てきました！がんばれっ！と心でつぶやきながら撮った一枚です。まさに現在の庭全体の植栽たちを象徴しているかのようです。何とかこの夏を乗り越えてもらいたいと思います。いかがでしたでしょうか。何だか今回は造園工事一辺倒な内容になってしまいましたが、まだまだ暑い日が続くと思いますが皆様熱中症にはくれぐれもお気をつけてお過ごしください。次回は年末12月発行予定です、お楽しみに！